

平成18年度

# 前橋市自然環境調査（昆虫類調査）

—概要版—



前 橋 市



## 前橋市自然環境調査の目的

本調査は、前橋市の自然環境の現況を調査・把握し、良好な自然環境および残された自然の保全のため、基礎的データを収集し、過去に実施された調査との比較を行うことによって、「改訂 前橋市環境基本計画」に示す環境像「多様な生態系が維持され、市民に潤いと安らぎを与える自然環境が守られ、はぐくまれるまち」、および「市民、事業者が主体的に環境保全活動に参加するまち」を推進することを目的としています。

前橋市では、合併前の旧市域において、平成 9・10 年度に動物（鳥類・哺乳類・は虫類・両生類・昆虫類・魚類・水生生物）、植物（植物相・植生）の基礎調査を実施しており、平成 14 年度は植物調査、平成 15 年度は鳥類調査、平成 16 年度は魚類・水生生物調査、平成 17 年度は哺乳類・は虫類・両生類調査を実施しました。また、平成 17 年度は合併により新たに加わった大胡・宮城・粕川地区を対象に自然環境基礎調査を実施し、平成 18 年度は全市域で昆虫類調査を実施しました。

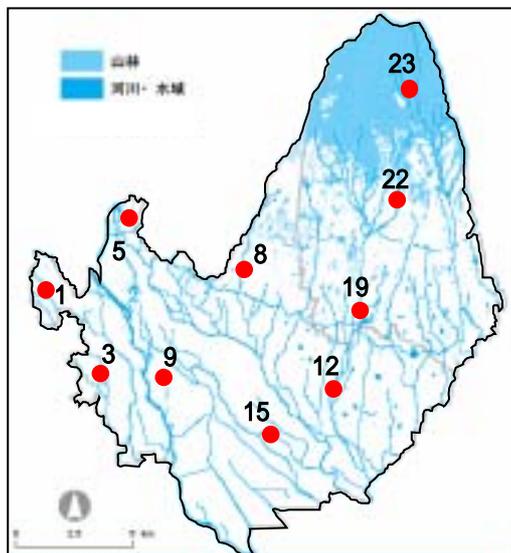


## 調査の概要

本調査は、前橋市による調査と市民による調査で実施しました。調査の内容、期間等の概要は、以下のとおりです。

調査内容	実施者	調査実施日	調査地点
昆虫類調査	前橋市	平成 18 年 7 月 10 日 ～平成 18 年 7 月 13 日 平成 18 年 9 月 26 日 ～平成 18 年 9 月 29 日	基礎調査を実施した中から 10 地点
市民調査 (市主催)	市民	平成 18 年 7 月 9 日	嶺公園
市民調査	市民	平成 18 年 7 月 9 日 ～平成 18 年 8 月 31 日	各調査員の身近な場所

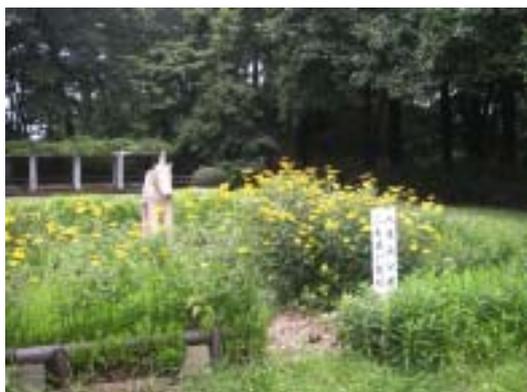
昆虫類 調査地点図



基礎調査では 10 地区 24 地点（うち新市域は 3 地区 7 地点）で調査を実施したが、今回はそのうち 10 地区 10 地点を選定し調査を実施した。

地区	地点	地域区分	地域の概要・環境要素	地点概要
清里・総社	No.1	田園(畑)	八幡川、田、畑、社寺林	八幡川沿いに広がる農耕地で、畑地・水田が存在する。河川沿いには主にオニグルミ、ヤマグワ、アカメガシワなどからなる河畔林が続いている。周辺には民家が散在し、スギの社寺林や牛舎も存在する。
元総社・東	No.3	市街地・一部田園	市街地、染谷川、畑、総社神社、工場、国道17号	郊外の住宅地であるが、染谷川沿いには水田や草地在りしている。染谷川はほぼ全域が急傾斜のコンクリート護岸で、一部にハリエンジュなどの河畔林がみられるほかはクズやイネ科草本に覆われる部分が多い。
南橋	No.5	山里	橋山、広瀬川、中子沼、田、ほたるの里、塩原塚古墳、寺	調査地点の西部に橋山、中央に丘陵地の尾根、東部に丘陵地の谷戸がみられ、典型的な里地、里山環境である。橋山にはアカマツ林やコナラなどの二次林が分布し、山麓の台地には苗圃や畑地が広がっている。東部の谷戸は水田地帯となっており、コイの養殖池である中子沼と数本の水路がある。水田の中には、ホタルの飼育観察施設も設けられている。
芳賀	No.8	田園・宅地	藤沢川、田園、住宅地	調査地点の中央付近には藤沢川が流れており、北側には水田が広がり、南側には住宅地がある。藤沢川の河川敷にはクズやイネ科植物の草地群落が分布している。
本庁	No.9	中心市街地	群馬県庁・市役所、利根川	県庁周辺の市街地と、利根川左岸の河川敷から構成されている。市街地は高層建築の並ぶ前橋市の中心街で、植生は街路樹や人家の庭などにわずかにみられる程度である。利根川沿いのがけ地には、ハリエンジュ、オニグルミ、センダンなどの樹林が帯状に続いている。
桂萱・永明・城南	No.12	田園(田)・宅地	荒砥川、田園、赤城神社社寺林、工場	調査地点の大部分は、平坦な農耕地である。調査地点の中央付近にある赤城神社周辺には、スギ植林や広葉樹、クリ園などの小規模な樹林環境が存在する。また、荒砥川河川敷には、ススキ、クズなどの高茎草地群落が広がる。
上川淵・下川淵	No.15	宅地	広瀬川、葦川、八幡山古墳、市街地	調査地点の多くは市街地で、中央部を広瀬川が流れる。北側に位置する八幡山公園には、落葉広葉樹やアカマツ林、草地など多様な環境が存在する。南側には果樹園が広がる。
大胡	No.19	市街地・田園	荒砥川、大胡駅、千貫沼	調査地点の中央付近に荒砥川が流れており、南端には千貫沼がある。大胡駅周辺には、市街地と住宅地が集中しており、それをとりまくように耕作地が分布している。
宮城	No.22	田園・山里	荒砥川、ぐんまフラワーパーク、どんぐりの森	調査地点の中央付近を流れる荒砥川の西側には、「ぐんまフラワーパーク」が位置している。荒砥川の段丘崖には森林がみられ、荒砥川に沿って帯状に分布している。耕作地も見られ、住宅地は少ない。
宮城・粕川	No.23	山麓	赤城温泉郷、粕川、荒砥川	宮城地区と粕川地区にまたがる地点であり、今回の調査地点の中で最も標高が高い調査地点である。赤城温泉、忠治温泉、滝沢温泉等が含まれる。調査地点中央には粕川と荒砥川が並行するように流れており、調査地点の大部分は森林に覆われている。

基礎調査では10地区24地点(うち新市域は3地区7地点)で調査を実施したが、今回はそのうち上記10地区10地点を選定し調査を実施した。



写真：上川淵・下川淵地区(撮影：平成18年7月)



写真：桂萱・永明・城南地区(撮影：平成18年9月)

## 調査の結果

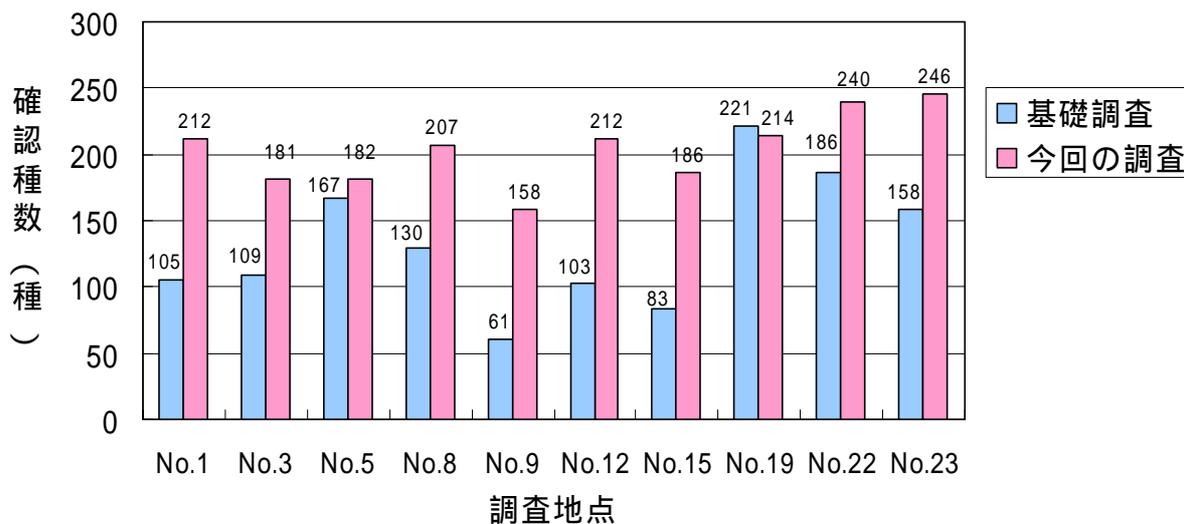


### 確認種数

今回の調査では 16 目 165 科 717 種の昆虫類を確認しました。

今回の調査と基礎調査とでは調査回数、調査時期、調査方法が異なりますので、単純に確認種数を比較することはできませんが、旧市域においては、総じて基礎調査より多くの種数を確認しました。また、新市域においても、基礎調査とほぼ同じかそれ以上の種数を確認しました。これらの結果より、市内全域では昆虫相は概ね健全に維持されていると考えられます。

	旧市域							新市域		
	清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	桂萱・永明・城南	上川淵・下川淵	大胡	宮城	宮城・粕川
	No.1	No.3	No.5	No.8	No.9	No.12	No.15	No.19	No.22	No.23
今回の調査	212	181	182	207	158	212	186	214	240	246
基礎調査(平成9,10年度)	105	109	167	130	61	103	83			
基礎調査(平成17年度)								221	186	158



写真：ピーティング法による調査  
(撮影：平成18年9月)



写真：芳賀地区 (撮影：平成18年7月)

注) 今回の調査では、昆虫類を直接確認し捕虫網・吸虫管などで採集する「見つけ採り法」、草むらなどを捕虫網でなぎ払うようにすくい取り採集する「スウィーピング法」、樹木の枝などを棒でたたき落下する昆虫類をピーティングネット(たたき網)で採集する「ピーティング法」(上記写真)などの手法を用いて、種の確認を行った。



**注目すべき種**

今回の調査結果において注目すべき種としたのは、ハネナシコロギス、コロギス、ケラ、クマコオロギ、スズムシ、カネタタキ、カンタン、ウスイロササキリ、ハネナガイナゴ、アオフキバツタ、トゲヒシバツタ、ニホントビナナフシ、クギヌキハサミムシ、ニイニイゼミ、ヨコヅナツチカメムシ、クワカミキリ、ニホンミツバチ、ギンイチモンジセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリの20種です。

これらの種は、「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編」に該当する希少種です。

写真：コロギス



写真：ギンイチモンジセセリ



写真：クワカミキリ



種名	No.1	No.3	No.5	No.8	No.9	No.12	No.15	No.19	No.22	No.23	群馬県RDBにおける カテゴリー(注1)
	清里・ 総社	元総社 ・東	南橋	芳賀	本庁	桂萱・ 永明・ 城南	上川淵 ・ 下川淵	大胡	宮城	宮城・ 粕川	
ハネナシコロギス											絶滅危惧 類
コロギス											絶滅危惧 類
ケラ											準絶滅危惧
クマコオロギ											準絶滅危惧
スズムシ											絶滅危惧 類
カネタタキ											絶滅危惧 類
カンタン											準絶滅危惧
ウスイロササキリ											準絶滅危惧
ハネナガイナゴ											絶滅危惧 類
アオフキバツタ											絶滅危惧 類
トゲヒシバツタ											準絶滅危惧
ニホントビナナフシ											絶滅危惧 類
クギヌキハサミムシ											絶滅危惧 類
ニイニイゼミ											注目
ヨコヅナツチカメムシ											注目
クワカミキリ											絶滅危惧 類
ニホンミツバチ											絶滅危惧 類
ギンイチモンジセセリ											準絶滅危惧(注2)
ヘリグロチャバネセセリ											準絶滅危惧
ミヤマチャバネセセリ											絶滅危惧 類
計 20種	3種	2種	4種	7種	3種	5種	3種	4種	7種	8種	

注1) 群馬県RDB：群馬県(2002)「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編」

注2) ギンイチモンジセセリは、環境省(2006)「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック-5 昆虫類」でも準絶滅危惧に該当する種である。なお、今回の調査では、本種以外に環境省のレッドデータに該当する種は確認しなかった。



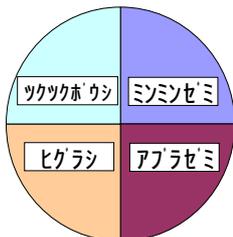
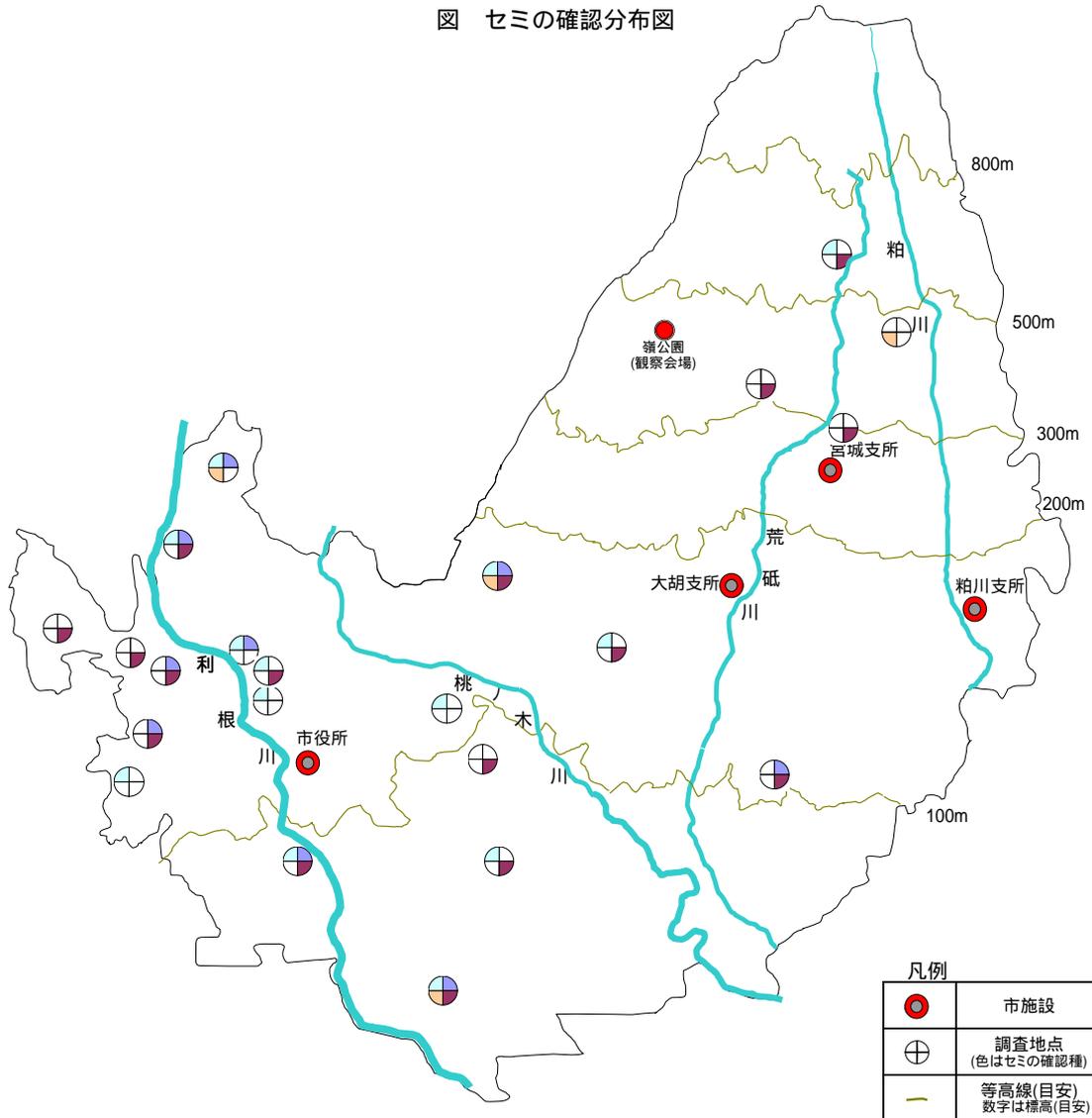
## セミは、どんなところにいるのかな？

- 市民が参加してセミ調査を実施しました -

ミンミンゼミ とどこからともなく聞こえてくるミンミンゼミ、真夏にジリジリジリ・・・とさらに暑さを感じさせるアブラゼミ、夕暮れ時にカナカナカナとさみしげに鳴くヒグラシ。前橋市には、以前はいたるところにたくさんのセミがすんでいました。

セミは、その種類によりすんでいる場所が違うため、温暖化や乾燥化など、わたしたちの身近な環境の特徴や変化を教えてくれる虫です。今年は、どんなところにセミがいたのでしょうか？

図 セミの確認分布図



色は各調査地点で確認されたセミの種類を示す。



注 1) 本地図は、調査用に作成されたものであり、実際の縮尺とは異なります。  
注 2) 掲載したセミの写真は、福島県会津若松市から提供いただいたものです。



### 市民調査の結果

市民調査の結果、23 地点についての調査報告が寄せられました。

確認したセミの種類は、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシの4種で、その他の種は確認されませんでした。また、1 個体あるいは2～5 個体と比較的少ない個体数を確認した地点が多くなりました。確認状況では、鳴き声による確認が大部分を占め、抜け殻による確認は2 件のみでした。その他、調査結果からは、ヒグラシが他の3 種に比べ出現時期が早いなど、セミの種類により出現時期や利用する環境が異なる傾向がみられました。

写真：ツクツクボウシの抜け殻



### 市民から寄せられた声

夜にカブトムシ採集に出かけたところ、偶然にもセミが羽化しているところを発見しました。そのそばにセミの抜け殻が2 個ありました。

国道 50 号から(前橋市) 総合運動公園までの沿道は、街路樹が植栽されており、その下はまさに「セミ時雨」だった。公園内もいたるところでセミが鳴いていた。

赤城神社で観察を行いました。宮司さんにお話を伺ったところ、8 月上旬から中旬にかけてはミンミンゼミ、夕方にはヒグラシの声が多く聞こえたとのことでした。

去年よりセミの鳴き声が少なかったような気がした。

8 月下旬から、自宅の庭でもツクツクボウシの鳴き声を聞くようになりました。8 月 19 日早朝に初めてミンミンゼミの鳴き声を聞きました。それからセミの鳴き声に注意していましたが、調査期間中にミンミンゼミの鳴き声を聞いたのはこの時だけでした。

納涼祭の会場になっていた公園でセミの鳴き声を聞きました。人ごみと祭りのにぎやかさの中でしたが、今年初めてツクツクボウシとアブラゼミの鳴き声を耳にしました。どの木でないのか確認はできませんでしたが、公園にはサクラやケヤキなどの広葉樹が多く植えられています。

～セミの抜け殻による特徴～

大きいぬけがら (体長26～32mm、脚の幅約15mm)		小さいぬけがら (体長24mm以下、脚の幅12mm以下)			
		足は少ししかつかない			足を付けている
アブラゼミ	ミンミンゼミ	ヒグラシ	ツクツクボウシ	ハルゼミ	ニイニイゼミ
					



前橋市生活環境部環境課  
〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12番1号  
TEL：027-224-1111（代表）  
※写真、イラストの無断転用を禁止します。